

目的 学校教育において服装評価が取りあげられることが少なく、また、それに関する教材がほとんど報告されていないのは、服装評価は個人によって異なり、自然科学分野の事象のような正確な評価値を得ることができないのが一つの要因である。本研究では、多くの仲間による服装に対する評定平均値を標準値として用い、この標準値と各個人の評定値との差異からその評価における個人差を算出した。これを基に各対象者が服装評価における個性を認識できる教材を作成した。また同時に、服装評価における多様性についても理解できるようなものとした。

方法 高校生を対象に、5種の各服装(写真)を観察してその評価を付箋に記し、その服装写真の裏に添付してもらった。次に、これらの各服装および各評価用語(30個)を「派手/地味」(X次元)、「ドレッシー/カジュアル」(Y次元)の観点から評価し、この2次元から構成される平面に布置するように教示した。布置された服装および服装評価用語の座標から全対象者の評定平均値(標準値)を求め、標準値と各個人の評定値との差を基に、各次元における服装評価の個人差を算出した。

結果 各対象者は、各服装、各服装評価用語をその平面に布置したのち、各服装の写真の裏に添付していた付箋を写真の表に貼り直し、その付箋に記されている評価に対して「派手/地味」の観点、「ドレッシー/カジュアル」の観点からの位置づけを知るとともに、その服装写真の近辺に布置されている服装評価用語との類似性を検討した。次に、服装5種に対する「派手/地味」あるいは「ドレッシー/カジュアル」の観点からの評定値についてそれぞれヒストグラムを描き、多くの仲間による評定値との違いを評価次元別に認識できる教材を作成した。